

# 啓蒙活動

# 小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ

## 「天満敦子チャリティーコンサート(無伴奏)Vol. 8」

2005年から、『カンボジアの音楽教育支援』を呼び掛け、第8回目にあたる2012年度は、7月14日(土)、東京千駄ヶ谷の津田ホールにて開催しました。今年度も、天満敦子さんのヴァイオリンの音色に心を寄せ、ゆったりとした時の流れを楽しみながら国際協力に参加できるコンサートとなりました。

来場者は目標450名に対して412名でしたが、初めての来場者は69名となり目標を上回りました。アンケートには「心を解き放ち、そして明日も頑張ろうと思える。それがカンボジアの教育支援につながるなんて素敵です」というコメントもいただきました。

本コンサートによる寄付金、募金等の総額は2,412,580円となり、2012年度の音楽教育支援に役立てられました。(音楽支援の詳細はP10,11を参照)



カンボジアの音楽授業



音楽コンテスト

## チャリティーオークションパーティー (CAP)2012

2012年12月4日(火)、神楽坂のアグネス ホテル アパートメンツ東京にて開催しました(通算4回目)。今回もTBSプロデューサーの石井ふく子先生には総括プロデューサーとして全面的にご協力をいただきました。来場者84名。品物のご寄贈は41件(個人、企業他)の結果となりました。



オークション風景

## 20代から80代までの17名が参加 スタディツアー開催

2012年12月12~17日まで、活動理解と支援を呼び掛けるツアーを実施しました。ボランティア体験や遠方の支援地での活動視察など、内容を充実させる程スケジュールが過密になることが課題となりました。一方、ツアー参加者からその後の支援の申し出をいただくなどの反響も出ています。



ペンキ塗り作業を行うツアー参加者

## 国際協力の裾野を広げる諸活動

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	年3回発行。カラー紙面を継続中。
活動記録集発行	年1回発行。紙面をA4版に拡大。リサイクル支援を特集
ホームページ運営	サイト訪問数38,958件
メールマガジン	年22回発行。閲覧者1,021名。
報告会・説明会	年3回開催。合計103名参加。
オリエンテーション	年6回実施。合計7名参加。
イベント・販売対応	年15回(25日間)対応
写真展	東京事務所内で1回開催。出展作品の一部がJHPチャリティーカレンダーに採用。
講演・講義等	役員・ボランティアが年16回対応。
ブンベン事務所 スタッフ報告会	4月1日にローカルスタッフ3名の日本研修時に実施。来場者83名。 日本の小中学生より36点が集まる。募集情報の周知が課題。
絵画展作品募集	2012年3月末時点で20名。
地域サポーター	ブンベン事務所が20組220名を対応した。

## 講義と現地研修が価値観を考え直す機会に



元駐カンボジア大使の今川幸雄副塾長(JHP理事)による  
レクチャーを受けながらのアンコール遺跡見学

## 第7期概要

第7期は、2012年9月8日(土)に開講し、国内講義(66回)とカンボジア現地研修(全日程23日間)の実施後、2013年3月23日(土)に修了式を行いました。

全科目履修生は22名(女性17名、男性5名/社会人16名、大学生6名)、聴講生は目標200名を達成し503名となり、社会人女性の積極的な参加が特色でした。

国内講義はJHP事務所内の会議室をメイン会場とし、各分野の第一線で活躍される総勢38名の講師陣から、カンボジアの歴史や文化、NGO活動等について学びました。座学の講義だけでなく、レポート提出や合宿(2回)、講師との懇談会なども行いました。

カンボジア現地研修では、音楽コンテスト・ブランコ建設作業等のJHPプロジェクトへの参加や、国際NGO等の訪問を行い、諸団体に関する理解を深めました。

さらに、カンボジアにおける諸問題について、相手国を尊重しながら援助に関わることを学ぶため、アンコール遺跡群を訪問・視察し、歴史・文化をより広く深く理解することができました。

本事業は国内講義とカンボジアでの現地研修を通じて、今までの価値観を考え直すよい機会となり、物事を多角的に考える人材を育成する事業となっています。また、幅広い世代間による交流は、受講生同士が互いに高めあい、人間的に成長する貴重な機会となり、将来にも大きな影響を与えるものと思われます。

なお、第7期国際ボランティア・カレッジの国内講義部門は平成24年度外務省NGO事業補助金(国内における国際協力関連事業)による助成をいただきました。

## 参加者の感想

約70回の講義は非常にバラエティに富んでいて、国際協力論一つをとっても色々な切り口で学ぶことができました。カンボジアについては、内戦時代を含む現代史を中心に、政治から文化遺跡、伝統衣装まで幅広い講義があり、発展途上国を違った視点から考えられるようになりました。その他にも世界・日本の現状や問題、外交論や文化論など、たくさんの専門家の熱弁を聴け、新しい概念を数多くインプットできました。何度も「そういうことか!」という閃きがありました。これらを今後のアウトプットにどう活かすかを念頭に置いて、まずはじっくり振り返りたいと思います。(吉田恭平)

キリングフィールドや、トゥールスレンの見学では、ボル・ボト派に対する怒りと大きな悲しみを味わいました。SVAのスラム地域やCCHで子どもたちとふれ合い、キラキラした瞳と、人懐っこさに圧倒されっぱなしでした。シュメリアップに移動後、バイヨン寺院の実物に接しながらの中川教授の講義に、遺跡に対する真摯な態度を感じました。アンコール小児病院での赤尾さんのお話では、地域医療で治る見込みのない子どもは、もう死んでしまったものとみなされてしまう現実を知り、訪問介護を決心された話にはこみあげてくるものがありました。カンボジアについて一層深く知り、かつ親しみを感じる事ができた現地研修でした。(田中幸雄)



7期開講式

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
全科目履修生	20人	19人	28人	31人	34人	27人	22人
出席率(平均)	62%	66%	68%	66%	70%	70%	70%
聴講生述べ人数	454人	377人	145人	94人	183人	257人	503人
講義数	83	83	72	68	71	69	66
講師数	34	37	42	40	41	40	38
現地研修参加者	12	13	17	18	24	18	16